



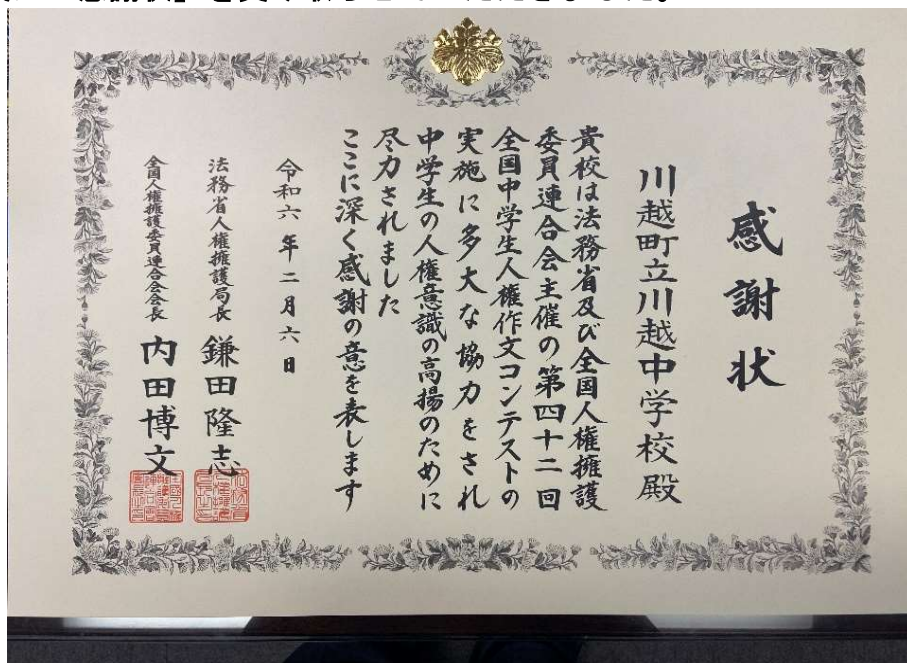
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉に応えようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心で応えようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



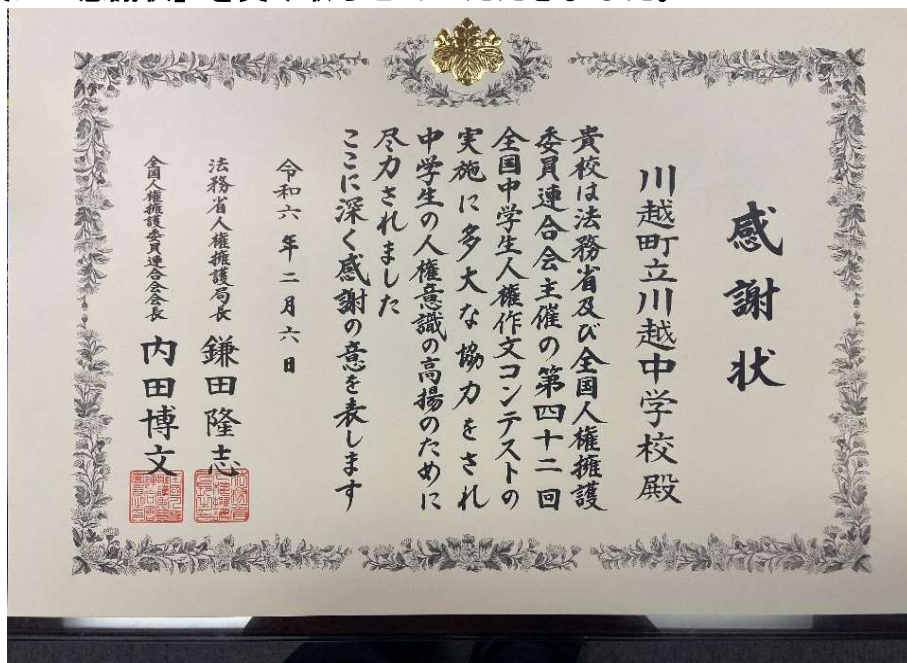
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉に応えようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心で応えようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



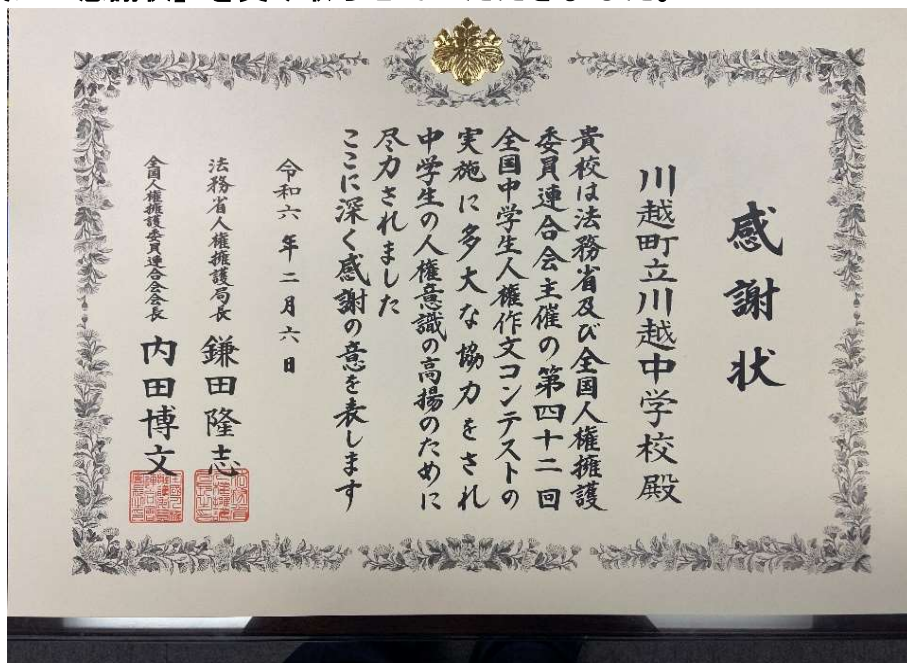
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉に応えようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心で応えようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



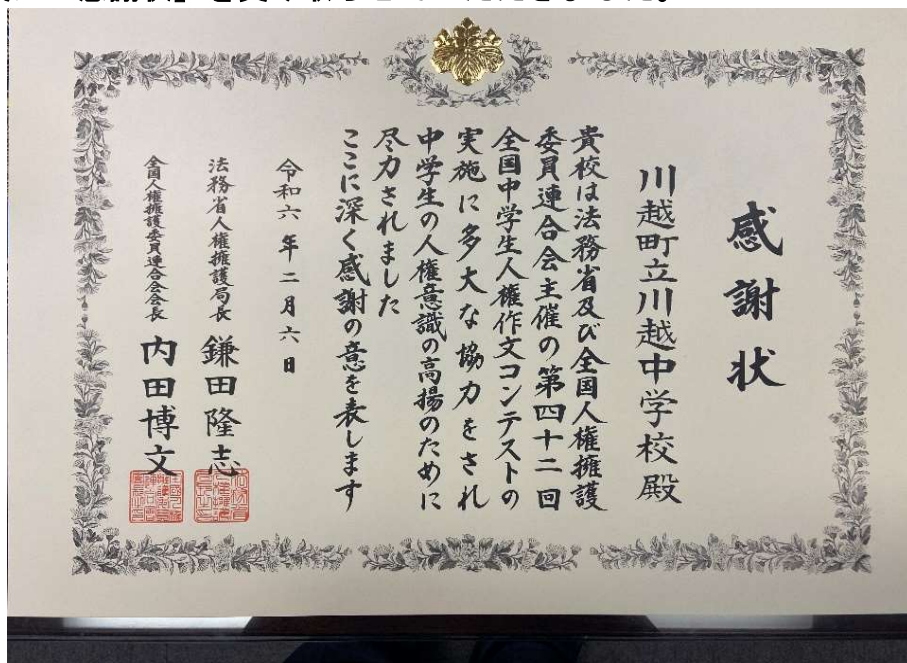
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



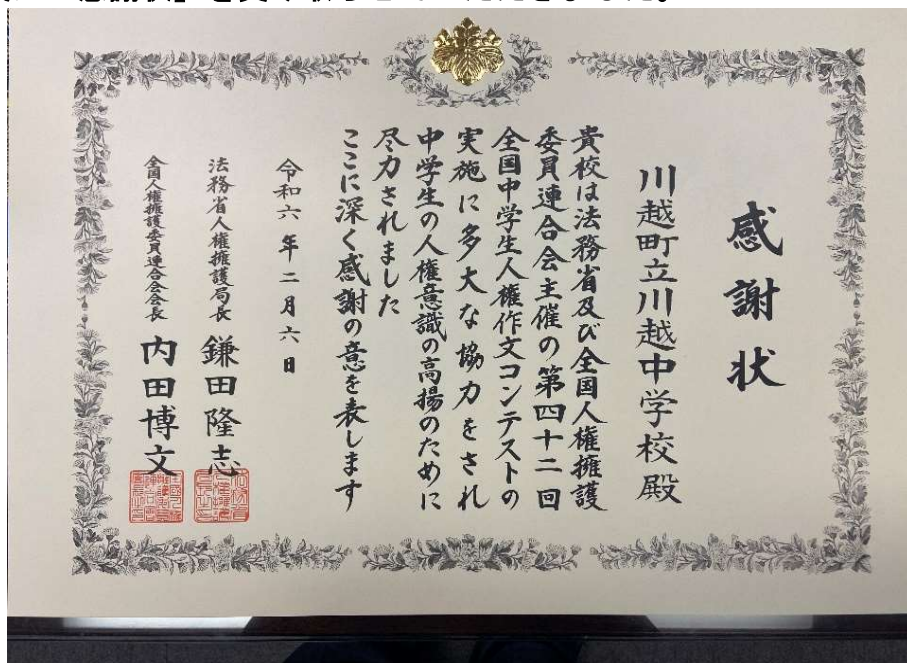
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉に応えようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心で応えようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



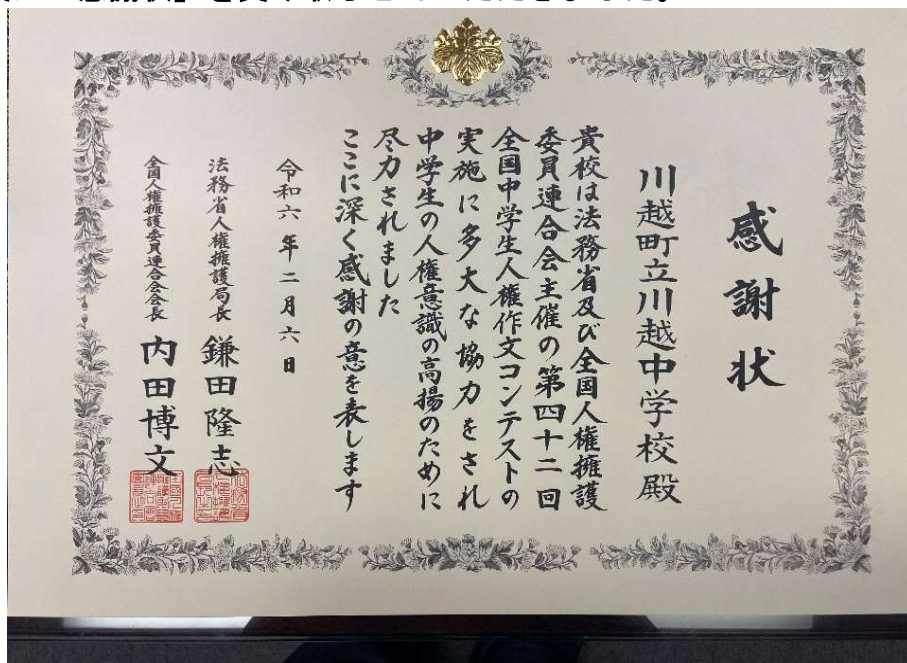
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉に応えようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心で応えようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



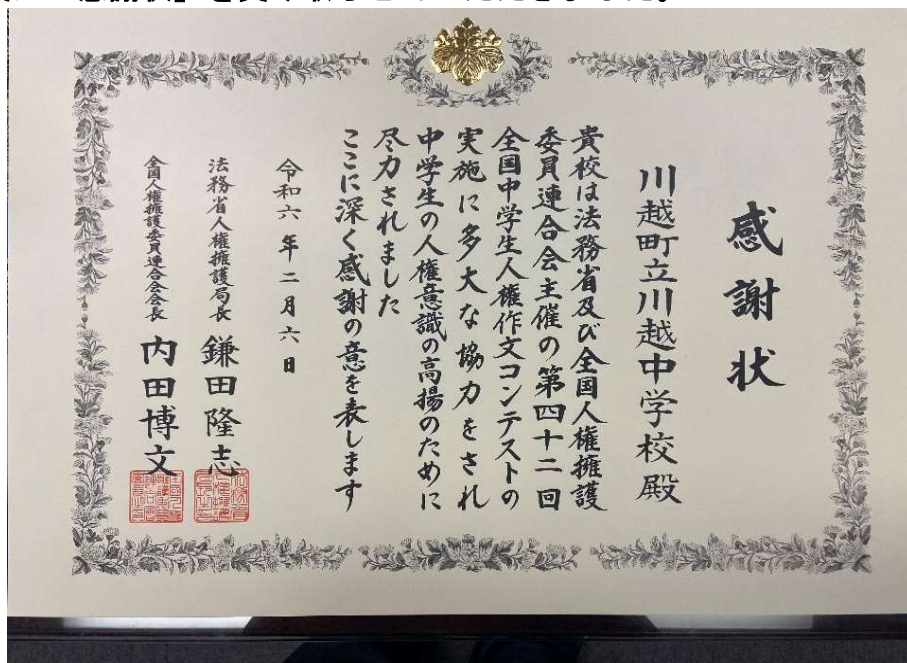
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にした様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



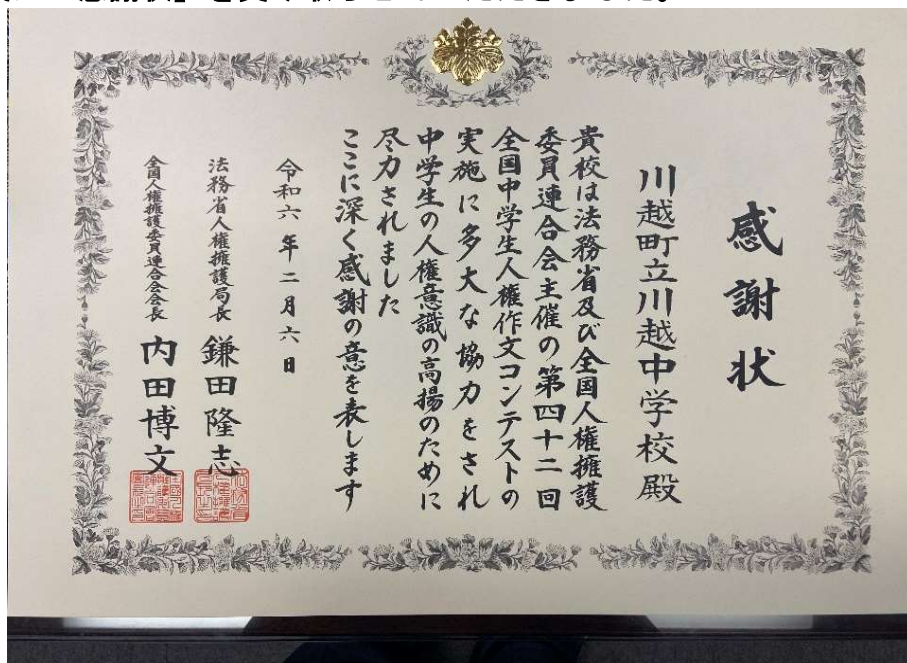
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にした様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



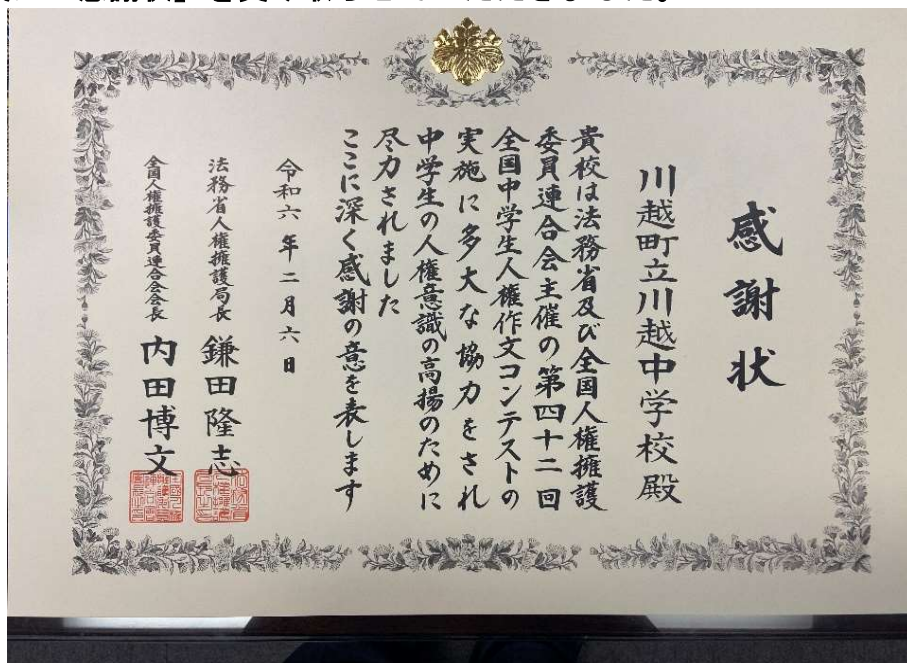
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



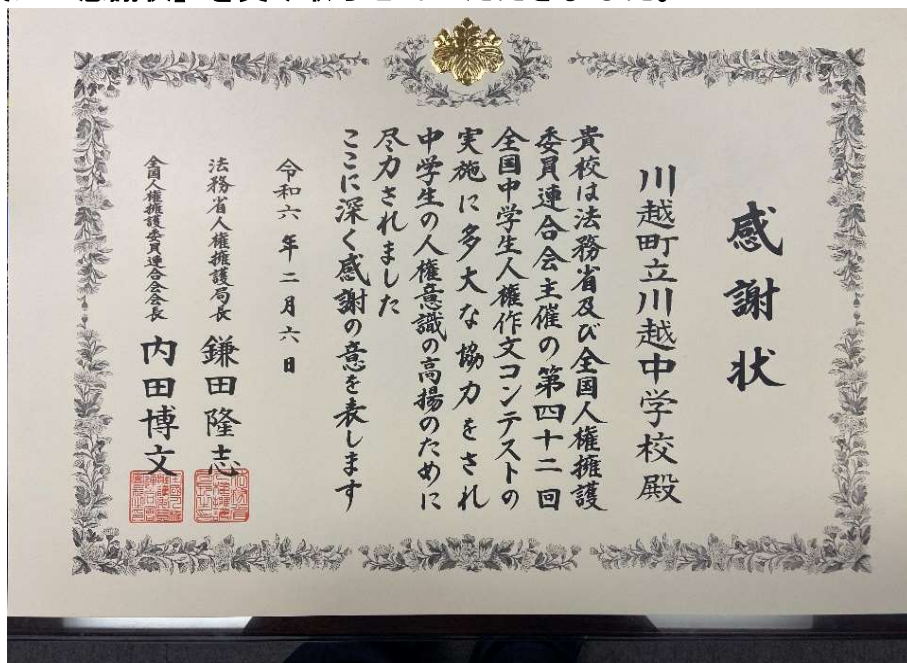
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



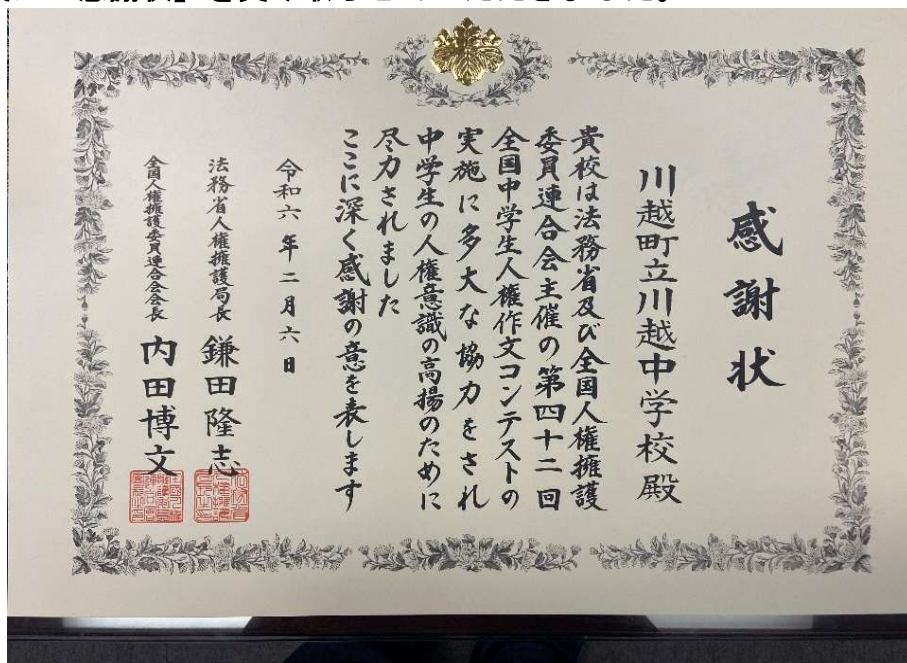
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデیلیーライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）まで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）



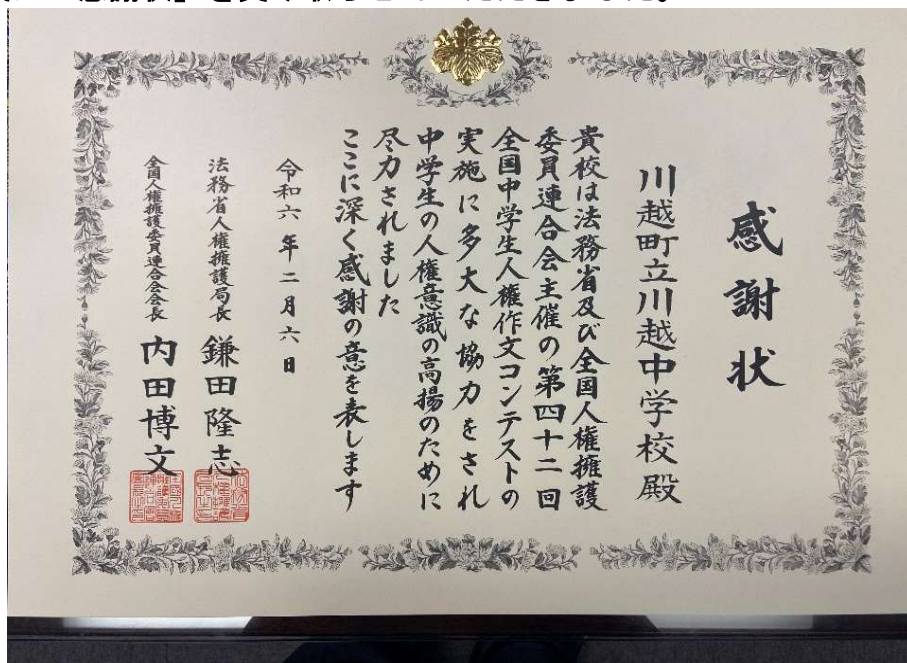
四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 46号最終号
令和6年3月25日
修了式。1年間子どもたちと先生方の頑張り

川越中学校が大切にしている1年間の成果！嬉しいお知らせを通じて・・・。
子どもたちと教職員がこれからも大切にしたいこと。
人権作文コンテストへの全校での取り組みに対して、三重県で3校に「感謝状」が贈られました。その内の1校が川越中学校です。これからも川越中学校では『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい様々な取り組みをすすめます。

人権作文コンテストへの長年に渡る全校生徒の取り組みと、一人一人の人権作文に込められた子どもたちの人権感覚あふれる想いに対して、そして、関わることを通して人権が大切にされる「仲間づくり」を学校運営の中心に置いた教育活動に対しての功績を、法務省人権擁護局長と、全国人権擁護委員連合会会長の連名にて『感謝状』が川越中学校に贈呈されました。

3月15日（金）川越町人権擁護委員の牧野さんから、全校生徒及び教職員を代表して、校長が「感謝状」を受け取らせていただきました。



今年度も12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われ、今年度の人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選会には三泗地区内のすべての中学校から、「3,845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と卒業した3年生の加藤緑羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞という素晴らしい結果となりました。昨年度の6名の入賞に続き大変嬉しい結果となりました。2年生の山下芽生さんの人権作文は、12月10日（日）の中日新聞朝刊【三重県版】に、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。

この人権作文コンテストは昭和56年（いまから41年前）から始まった取り組みです。きっと保護者の皆さまも中学校時に人権作文に取り組んでいただいた経験もおありかと思います。そんな伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施し

ている大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。特に2年生、3年生では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、そしてその学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。

川越中学校は令和2年度から三重県の人権教育研究指定校事業を受け、「互いの人権を尊重し、仲間とともに差別をなくそうと行動できる生徒の育成」という研究主題のもと、『人権学習』を時間をかけて大切にに取り組んできました。4年目を迎える現在でも、『仲間づくり』を学校の主たる活動の中心に置き、「すべてが仲間づくりにかかわる学びの場」として教職員が子どもたちとともに学校づくりをすすめてきました。

川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、そして少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも本当に嬉しいことでした。まだまだ川越中学校には様々な課題があります。友だち関係に悩む生徒、自分自身の進路に悩み考える生徒、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。

これは、先生方が本当に大切にしている「通信」の取り組みの成果でもあります。各学年通信や各クラス通信での子どもたちの言葉を綴り、その言葉に対して先生の考え方を子どもたちに共有し、クラス事、自分事として考える。そして、関わりの中で、子どもたちが日々仲間を思いながら、仲間を大切にしながらの日常を送ってきた成果でもあります。このように川越中学校では、これからも人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからの生きる力につながることを願って進めていきます。

【大切な川越中学校の生徒のみなさんへ】

通信や日々のデ일리ライフの中にあるみなさんからの言葉には、いろんな皆さんがいました。担任の先生からの優しくも厳しい言葉にこたえようと皆さんがいました。毎日、自分と本気で向き合い、一文字、一文字にその心をこめ、綴ってきた皆さんがいました。その心をしっかり受け止め、自分の心でこたえようとする皆さんがいました。仲間とつながろうとする皆さんがいました。そして、そのつながりが皆さんを日々変えていきました。クラストークで仲間と語る皆さんに成長した様子が学年通信やクラス通信等からもいっぱい感じとることができました。『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です！』1年間みんな頑張ったね！本当にありがとう！みんなからいっぱいチカラをもらって頑張ることができました。（校長）

1年間、本当にありがとうございました。令和6年度もよろしくお願いします。

令和5年度、本日まで大過なく学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力によるものであります。職員一同、感謝申し上げます。

学年通信・クラス通信・保健たより、生徒会たよりそして学校だより・学校ホームページなど、子どもたちの言葉をつなぎ、子どもたちと教職員が一生懸命に学校づくりを進める様子を紹介してきました。ホームページも4月2日の「3, 935, 134アクセス」から今日3月25日（月）までで「4, 690, 203アクセス」という大変多くの保護者の皆さまはじめ子どもたち、大切な卒業生、地域関係者の皆さまにいっぱい目を通していただいたことに心から感謝をいたします。令和6年度も継続して子どもたちと教職員の全力と笑顔と一生懸命をいっぱい紹介させていただきます。

保護者の皆様におかれましては、春休み中、ご家庭でお子様を見守っていただくとともに、けがや病気、事故に十分お気をつけていただき、4月8日（月）の新年度の始業式には、元気な姿でご家庭から送り出させていただきますようよろしくお願いいたします。

本当に1年間お世話になりました。新年度も、今まで以上に本校の教育活動にご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。（校長）